

## 令和3年における交通事故の発生状況等について

### 1 交通事故死者数及び重傷者数の推移

- 交通事故死者数及び重傷者数は減少。うち高齢死者の割合は増加  
死者数 2,636人（前年比-203人、-7.2%）  
重傷者数 27,204人（前年比-571人、-2.1%）
- 状態別死者数では歩行中が減少するも最多  
歩行中死者数 941人（前年比-61人、-6.1%、構成率 35.7%）

### 2 令和3年における交通事故死者数等の特徴

全体として減少又は減少傾向にあるが、特徴は以下のとおり。

- 歩行者
  - ・ 事故類型別では、横断歩道以外横断中での減少傾向が大きい。法令違反別では、車両側では前方不注意や横断歩行者妨害等、歩行者側では横断方法等の違反が多いが、横断歩道横断中の約8割は違反なし
  - ・ 歩行中全体に占める高齢者の割合は増加傾向にあり、高齢者の歩行中死者数の8割近くが横断中。また、高齢者の横断歩行中死者は、高齢者以外と比較し横断違反が多い
- 自転車
  - ・ 高齢者の割合は約7割と高く、増加傾向。法令違反別では、高齢者と高齢者以外とで顕著な差はなく、7～8割に法令違反がある
  - ・ 自転車乗用中の死者の約6割は頭部を損傷しているが、死傷者のうちヘルメット非着用者率は、全体としては未だ約9割
- 自動車
  - ・ 事故類型別では車両単独が5割以上を占め、次いで約2割が正面衝突。車両単独事故の死者数のうち半数以上がシートベルト非着用であるが、シートベルト非着用者の致死率は着用者の致死率の約17倍
  - ・ 高齢運転者による死亡事故の人的要因では、操作不適の割合が高い
- 児童
  - ・ 歩行中児童の死者・重傷者の約4割が登下校中であり、歩行中は低学年が多く、時間帯別では14時～17時台が多い
- 飲酒運転
  - ・ 飲酒運転以外の事故と比較すると、飲酒運転の死亡事故率は約9倍高く、人的要因では操作不適や前方不注意が多い
- 通行目的
  - ・ 通行目的別の死者・重傷者数について、令和元年と令和2年では、観光・娯楽及び飲食では顕著な減少がみられ、令和3年も減少傾向が継続。他方、ドライブや散歩では令和2年以降は増加傾向。時間帯別にみると、観光・娯楽は日中、飲食目的は夜間・朝方の減少が顕著

### 3 本年の主な取組

- 子供や高齢者をはじめとした歩行者の安全確保
- 自転車の遵法意識の向上に向けた交通安全教育等の推進
- 飲酒運転等の悪質・危険な交通違反の指導取締まり